

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
長町			
ながちよう	栄町2丁目1番（県営長町アパート入り口）	S62.1	川又 南嶽
S42.5			
藩政初期のころ武家屋敷が五軒あり、元禄三年（一六九〇）に五軒町と名付けられた。天明のころ（一七〇〇年代後半）には、長町と俗称され、五軒町の名称は他へ移された。			
仲町	大町3丁目515番2	S62.1	関谷 寿石
なかまち			
S41.3			
江戸氏在城のころから開けた町で大町と南町の間にあったため中（仲）町と呼ばれた。藩政初期の寛永二年（一六二五）までにこの地の町屋や寺院は他に移され、武家屋敷地となった。			
並松町	栄町1丁目2番（並松町児童公園内）	S61.3	荘司 漱雲
なみまつちよう			
S42.5			
新道の通称であった並松が、元禄三年（一六九〇）に正式な町名となった。町域は時代により何回か変更されている。武家屋敷であった。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
奈良屋町			
ならやちよう	宮町2丁目9番地先 (交差点)	S63.2	飯野 白延
S51.1			
藩政以前に開けた町だといわれるが、奈良屋町の町名が記録に現われるのは寛文年間(一六六一以降)のことで、由来も明らかでない。柳提を経て上町と下町を結ぶ重要な道筋であった。			
西町	五軒町1丁目1番地先 (河原井電気前 歩道)	S62.1	川又 南嶽
にしまち			
S41.3			
江戸氏在城のころから開けた町で、城下町の西端にあたったため西町と称された。藩政初期の元和七年(一六二一)から寛永二年(一六二五)にかけて町家は他に移され、武家屋敷地となった。			
二ノ町	城東1丁目6番地先(トッププロスプリント東側歩道)	S61.3	川又 南嶽
にのちよう			
S45.4			
もと内川崎と呼ばれていた地域の一部で、元禄三年(一六九〇)の令によって「二ノ町」と名付けられた。武家屋敷であった。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
根積町			
ねずみちょう	柳町1丁目13番13号	H1.2	福地 養鷺
S51.1			
<p>藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに武家屋敷地とされ、「ねずみちょう」と呼ばれた。鼠町、根積町等の字が当てられたが、その由来は諸説あり明らかでない。</p>			
馬口労町	末広町2丁目2番（ロータリー内）	H1.2	関 南沖
ばくろうちょう			
S43.4			
<p>藩政初期の天保年間（一六四四～一六四八）常葉村から町方に編入された。城下への出入口として問屋や運送業者、商店で賑わった町で、町名の由来には諸説あって明らかでない。</p>			
蓮池町	城東3丁目2番（県営蓮池町アパート敷地内）	S62.1	楊 希風
はすいけちょう			
S55.1			
<p>藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに低湿地帯を埋め立てて開かれた武家屋敷地で、当時蓮池なども残っていたため、蓮池町の名が付けられたという。</p>			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
八町目			
はっちょうめ	東台2丁目11番22号	H1.2	深見 子浩
S55.1			
藩政初期に寛永二年（一六二五）ころに開かれた町の一部で岩城街道の筋道にあたる。藩政時代は、七町目までの本町に対し、「通（とおり）」を付けて「通八町目」と呼ばれた。			
花小路	新荘3丁目6番（常陽新荘アパート前）	S61.3	阪場香津決
はなのこうじ			
S43.4			
天保七年（一八三六）九代藩主徳川斉昭が藩政改革の一つとして、江戸住の家臣に国元帰住を命じて開いた新屋敷の一部である。各小路には樹木の名が付けられた。			
花畑	城東4丁目2番15号地先	S62.1	関谷 寿石
はなばたけ			
S45.4			
藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに開かれた武家屋敷地で、元禄三年（一六九〇）に「花畑ノ辻」と名付けられた。それ以前に藩の花畑があったので、一帯を御花畑と呼んでいたという。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
馬場			
ばば	城東2丁目6番（城東児童公園内）	S61.3	吉澤 鐵石
S45.4			
この地は、もと川崎と呼ばれていた地域の一部で、水戸藩初代藩主徳川頼房の時代に馬場が作られ、馬乗馬場、あるいは馬場と呼ばれた。片側は武家屋敷であった。			
浜町	本町2丁目13番29号地先	S63.2	鬼澤 三鬼
はまちょう			
S51.1			
藩政時代は浜田村に属し、明治二十二年の市制施行のときに水戸市に編入され、水戸市大字浜田字田中後となった。浜街道との関連で、昭和九年の市内町名改称により浜町となった。			
檜物町	本町2丁目5番地先（コバヤシ理容所 角）	S62.1	吉澤 鐵石
ひものちょう			
S51.1			
藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに低湿地帯を埋め立てて開かれた町の一部で、桶工、指物職などの大工関係の職人が多く居住していたため、この町名が名付けられた。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
藤坂町			
ふじさかちよう	五軒町3丁目1264番2(大成学園)	S63.2	山内 香鶴
S42.5			
この通りの北のはずれに寛文年間、富士権現の社があり、富士坂と呼ばれる坂があった。元禄三年(一六九〇)に富士山町と名付けられたが、のちに藤坂町と改称された。武家屋敷地であった。			
藤沢小路	南町2丁目123番地先	S62.1	荘司 漱雲
ふじさわこうじ			
S41.3			
佐竹氏在城の天正十九年(一五九一)、この地に藤沢山神応寺が建立され、藤沢小路と称された。神応寺は、延宝八年(一六八〇)に現在地に移されて、跡地は武家屋敷となった。			
宝鏡院門前	城東1丁目6番地先 (トッパンプロスプリント北側歩道)	S63.2	赤塚 東村
ほうきょういんもんぜん			
S45.4			
この地の北側に、天保十四年(一八四三)まで宝鏡院と称された寺院があり、その門前のため「宝鏡院門前」あるいは単に「門前」(もんぜん)と呼ばれ、武家屋敷地であった。			